

令和5年度 学校評価表（上半期）

三原市立大和小学校(校番20)

<p>a 学校教育目標</p>	<p>夢や目標に向かって、自ら伸びる とともに伸びる児童の育成 (校訓) 自ら伸びる とともに伸びる</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p> <p>【ミッション】 志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】 児童、教職員、保護者が「夢や目標に向かって、自ら伸びる とともに伸びる」という教育風土がある学校 <めざす学校像> 「自ら伸びる とともに伸びる」という教育風土のある学校 <めざす子ども像> 「規律あるかわり合いを通して、自ら考えともに伸びようとする子ども」 <めざす教職員像> 「児童を守り、育て、育む」ことを自覚し、実践できる教職員</p>
-----------------	--	--

c 中期経営目標	d 短期目標	e 目標達成のための具体的方策(大枠)	f 評価項目	指標	目標値	自己評価				改善策		学校関係者	
						10月	2月	i	j	k		l 評価	
						h 達成値	h 達成値	達成度	評価	結果と課題の分析		改善策	
<p>確かな学力</p> <p>主体的な学びを実現する取組を通し学力の定着と主体的・対話的で深い学びを追究する</p>	<p>各学年で身に付ける力を付けることともに、親和性の高い集団をつくる</p>	<p>【授業改善による学力定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・45分間の授業で、基礎基本の力を身に付けるための授業改善【研究部】 ・児童の主体的な学びにつながる「問い」「学び合い」のある授業改善【研究部】 ・学び方の選択肢と自己決定のある授業改善【研究部】 	<p>単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の学年平均値が指標に示す点を超える教科数(20教科) 【評価時期】(1学期末・2学期末)</p>	<p>平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)</p>	<p>20/20教科</p>	<p>17/20教科(85%)</p>	<p>76%</p>	<p>C</p>	<p>・単元末テスト指標に到達していない教科は、国語2学年 社会1学年。算数は、全学年指標の平均値を超えている。1学期は、校内漢字検定と校内算数検定を実施し、特に算数検定に向けては、プレテストを自作し、十分な学び直しを行った。この取組は、児童にその学期で身に付けるべき学力を確実に定着させる取組であると同時に、指導者が児童に身に付けさせる力を明確にして実践を行う力を伸ばす取組でもあると考える。 ・全教職員で、誤答の多かった問題を実際に読んで、NRT結果の分析を行った。その結果、その問題に特有の躓きもあるが、共通した課題は基礎基本の力の定着が不十分であるために素早く解決できなかったり、ミスが多かったりするのではないかとあった。 ・児童に興味関心をもち授業を展開させることは、意図的に取り組んでいる教員は多いが、それに比べて児童の意見交流を意識して授業改善に取り組んでいる教員は少ない。 ・単元内自由進度学習の作成について、5月に共通確認をした。しかし、実際の授業提案は6月下旬であったために、単元内自由進度学習が目指す「個別最適な学び」と協働的な学びを一体的に進めていく取組は不十分であった。 ・本年度導入した「ロイノート」の使い方やその効果について説明し、積極的に研修にも取り入れた。</p>	<p>・算数だけでなく、国語・社会も単元で身につけさせる力を明確にして授業改善を行う。 ・校内検定を継続し、その学期に身につけるべき力を確実に身に付けさせる取組を全校で行う。 ・アシストシートを計画的に実施して学び直しを行うとともに、算数科の各単元末に複数の教員が指導を行い、その学年で身に付けるべき力を確実に身に付けさせる。 ・2学期以降、全教職員が1単元以上の単元内自由進度学習を行う。 ・単元内自由進度学習で使用する児童の提示資料をロイノートで作成し、どの学級でもICTを使って情報交流をしたり、児童がICTを活用して様々な問題に挑戦したりできるようにし、全ての児童の主体的な学びを実現することを目指した内容とする。 ・単元内自由進度学習のために作成した資料は、児童の思考を深めるための発問を工夫したり、学び合いの場を設定したりするなど、協働的な学びの場を工夫するようとする。また、その作成した提示資料を全教職員で交流することで、思考を深めさせる授業展開のための手立てを増やす。</p>	<p>○</p>	<p>・基礎基本の定着が十分ではないことがわかる。中学校も同じ傾向がみられるので、小中ともに粘り強い定着の取組を進めていきたい。 ・授業改善の視点として、選択肢と自己決定のある授業の創造を目指してほしい。 ・めあてを明確にした授業展開を心掛けておられるので、めあてに対応したまとめになっているかをもっと考えたいことを期待します。 ・児童の学習状況を把握するために積極的な机間指導と個別指導を期待します。 ・授業で挙手や発表など積極的に発表している児童が多く、子供たちがしっかり授業をうけているという印象でした。 ・自分で決めて自分で学習できる単元内自由進度学習にも取り組まれることで、今後主体的な学びが更にふかまっていくとよいですね。</p>	
		<p>その学年で身に付けるべき学力を確実に定着させる</p>	<p>NRT学力テストの平均値が全国平均以上の教科数(13教科) 【評価時期】(7月)</p>	<p>全国平均以上の教科数</p>	<p>13/13教科</p>	<p>5/13教科(38%)</p>							
		<p>・「聞く」ことを大切にし、ねらいを達成するための「学び合い(ペアやグループによる学習)」のある授業改善【研究部】</p>	<p>○授業者アンケートによる調査 (あ)児童が課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組もうとする授業づくりを工夫した。</p>	<p>90%</p>	<p>90%</p>	<p>90%</p>							
		<p>・教科書の文章を「読む」ことができる授業改善【研究部】</p>	<p>(い)授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や活動を設定するなど、指導法を工夫した。</p>	<p>90%</p>	<p>80%</p>	<p>80%</p>							
		<p>・通過率40%未満の児童への具体的な対応がある授業改善【研究部】</p>	<p>(う)授業において、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう、学び合いの場(ペアやグループによる学習)を工夫した。</p>	<p>肯定的評価の割合</p>	<p>90%</p>	<p>80%</p>							
<p>・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり【研究部】【生徒指導部】</p>	<p>(え)単元内自由進度学習の単元づくりを行った。</p>	<p>90%</p>	<p>80%</p>	<p>80%</p>									
<p>・ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業改善【研究部】</p>	<p>(お)「ICT機器を使って、問題に挑戦したり、まとめたり、調べたりすることを通して」 【評価時期】(1学期末・2学期末)</p>	<p>90%</p>	<p>80%</p>	<p>80%</p>									
<p>豊かな心と親和性の高い集団</p> <p>安心して学べる学習環境の醸成を図るとともに、自他を尊重する心情・態度を育成する</p>	<p>親和性の高い集団をつくる</p>	<p>【規範意識の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に所属意識を持たせ、円滑な集団生活の基盤となる(規範意識・ルール・マナー等)を身に付けさせる 	<p>QUアンケートの結果 【評価時期】(5月下旬・11月下旬)</p>	<p>学級生活満足群に位置づく児童の割合60%以上の学級数</p>	<p>8/8学級</p>	<p>3/8学級(38%)</p>	<p>66%</p>	<p>C</p>	<p>・「大和小みんなの一日」については、年度初めに全校一斉で周知の場を設定した。学期の途中に変更点があった場合も、全校一斉で周知を行った。全校一斉で周知することで、全教職員、全児童が同じ基準で生活することができた。 ・生活や学習の場で自己決定する場については、授業改善のポイントとして行ってきたが、具体的な場面で共通理解を図るところまでは至っていない。 ・(あ)については、目標値には達していないが、昨年度最終より5ポイント上昇している。さらに、全学年の周知、指導により児童の規範意識が高まっていると考える。 ・目標値と大きく下回っているのは、(い)(う)(え)(き)であり、「聞く」を大切にしたり、「学び合い」の場を意図的に設定したりすることで、親和性のある集団づくりを目指すとともに、自己決定の場のある授業改善への取組が必要である。 ・いじめアンケートをもとに、全児童との面談を学期に1回は行い、児童の困りごとを聞いたり、成長を認めたりする場としている。 ・総合的な学習の時間でそれぞれの学年が、地域の人やものと関わることができるような学習をしている。 ・夏季休業中に道徳の指導案作成をし、それをともに、内面に迫る授業となるようにグループごとに協議を行った。</p>	<p>・指導に困った時には確認・見直しをその都度行うこと、情報を速やかに共有することなどを続けて、2学期以降も全教職員が同じ指標をもって生徒指導にあたることができるようにする。 ・集会活動や自治的な活動を少しずつ増やして、児童の所属意識や規範意識を高めていきたい。 ・2学期以降は、単元内自由進度学習など、授業研究の場で共通理解を図りながら取り組む。</p>	<p>○</p>	<p>・安心安全な学校、学級が一番大切だと思います。引き続き取組をお願いします。 ・教職員と児童がルールについて共通理解をして、学校生活を送ることで大きな成果が見られます。 ・学びに向かうための環境づくりができていますと感じました。</p>	
		<p>児童に所屬意識を持たせ、円滑な集団生活の基盤となる(規範意識・ルール・マナー等)を身に付けさせる</p>	<p>1次支援(A)の割合が50%以上の学級数</p>	<p>7/7学級</p>	<p>0/0学級(0%)</p>								
		<p>【共感的な人間関係づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞く」ことや「学び合い」を大切に授業改善【研究部】【生徒指導部】 ・内面に迫る道徳科の授業改善【研究部】 ・重点項目 B「思いやり」(B-6・B-7) C「よりよい学校生活・集団生活の充実」(C-14・C-15・C-16) ・ねらいをもった児童同士の交流の場がある学級活動【生徒指導部】 ・1校1貢献活動の実施【教務部】 	<p>児童質問紙によるアンケート調査 (あ)「学校のきまりやルールを守って生活をしている」</p>	<p>90%</p>	<p>77%</p>								
		<p>児童に、他者とかかわり合う場面を与え、その中で、自己肯定感を高めさせるとともに、相手に大切にすることを態度を身に付けさせる</p>	<p>(い)「自分にはよいところがある」</p>	<p>85%</p>	<p>73%</p>								
		<p>・「聞く」ことや「学び合い」を大切に授業改善【研究部】【生徒指導部】</p>	<p>(う)「自分のよさを周りの人に認められていると思う」</p>	<p>95%</p>	<p>66%</p>								
<p>・生活や学習の場で自己決定する場の設定【生徒指導部】【研究部】</p>	<p>(え)「将来の夢や目標を持っています」</p>	<p>95%</p>	<p>89%</p>										
<p>・ねらいをもった児童同士の交流の場がある学級活動【生徒指導部】</p>	<p>(お)「努力すれば、自分もたいのことは出来ると思います」</p>	<p>95%</p>	<p>89%</p>										
<p>・1校1貢献活動の実施【教務部】</p>	<p>(か)「地域のことが好きです」</p>	<p>95%</p>	<p>91%</p>										
<p>【生涯にわたって健康づくりをしよとする健康教育の充実】 【生涯にわたって運動しようとする心情の育成につながる授業改善】</p>	<p>児童質問紙よりアンケートによる調査 「体育の授業は楽しい」</p>	<p>肯定的評価の割合</p>	<p>「体育の授業」 95%</p>	<p>「早寝」 80%</p>	<p>「早寝」 64%</p>	<p>78%</p>	<p>C</p>	<p>・「体育の授業が楽しい」と感じている児童のアンケート結果は、目標値より4%低かったが、肯定的に評価している児童は多い。クロームブックを活用しながら学び合ったり、見合ったりする授業に楽しさを感じたのではないかと考える。2学期以降においても、楽しく、運動量がある体育の授業をしていく必要がある。 ・「おうちで決めた時刻に寝ている」(早寝)ことができている児童の割合は低い。早寝が難しい要因としては、様々な家庭環境や、ゲーム・YouTube・テレビ等のメディアの視聴時間が長いことが考えられ、早急な取組が必要である。</p>	<p>・楽しく、運動量がある体育の授業づくりを推進していくため、夏季休業中に職員研修を実施し、指導方法を学ぶ。 ・自己決定・自己選択の場を設定し、自分の目標に向かって楽しく学習できるように授業改善に取り組む。(例:ボール投げゲーム等でコースを設定し、自分でコースを選択・決定させる。) ・運動しているところを動画で撮影したり、動きのポイントを動画で見たりするなど、学び合う場・視覚的にわかりやすく提示する場・振り返る場等で引き続きICTを活用していく。 ・生活アンケートを実施し、「早寝」を意識した重点週間に取り組む。 ・就寝の1時間前は、テレビやゲーム・スマートフォン等を見ない(アウトメディア)の項目をアンケートの中に位置づけ、早寝を意識させていく。</p>	<p>○</p>	<p>・体育の楽しさは、学年によって異なると思います。学年に応じた楽しさを考えて授業内容や方法を改善していくことで体育の授業に楽しさを感じる児童が増えてくると思います。 ・ゲーム等のメディアの視聴時間が長いことは、中学校でも大きな課題となっています。 ・クロームブック等ICTをしっかりと活用されており、楽しい授業へつながっていると感じました。 ・ゲーム等で夜ふかしする児童も多いと聞きます。基本は家庭内教育だと思います。</p>		
<p>児童に確かな目標を持たせ、生涯にわたって健康を保持推進し豊かなスポーツライフを実現しようとする心と体を育成させる</p>	<p>「おうちで決めた時刻に寝ている。」</p>	<p>95%</p>	<p>91%</p>										
<p>教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、学校行事及び総合的な学習の時間の内容を精選することを通して、児童に向き合う時間数を確保するとともに、職員の健康を維持する。</p>	<p>教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、学校行事及び総合的な学習の時間の内容を精選することを通して、児童に向き合う時間数を確保するとともに、職員の健康を維持する。</p>	<p>○市の方針「勤務時間上限の目安時間」(上限の目安時間及び特例的な扱い)に記載されている内容を達成する。 ・上限目安時間・45時間/月を超えない。・360時間/年を超えない。 ・特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超える月は、1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれの期間について、1カ月当たりの平均が80時間を超えない。 【評価時期】(9月末・1月末)</p>	<p>勤務時間外の在校時間、全教職員年間360時間以内、月45時間以内の割合</p>	<p>100%</p>	<p>34%</p>	<p>34%</p>	<p>D</p>	<p>・生徒指導事業の未然防止を図るため、全教職員で児童の状況をみたり、動いたりできる体制を構築する。また、事業が生じた場合、連絡・報告・相談を早く行うとともに、対応の方針を基に複数での適切な初動対応及びその後の取組を行う。 ・ルーチンワークで例年時間のかかる業務に関しては、下半期後半以降の月も含めて、期日等の早めの周知と組織としてのルール確認の時間を設けて、個々が計画を立てて遂行できるようにする。また、慣例で実施している行事等は、行うようになった経緯や学校教育目標達成のために必要かどうかを吟味して内容等を精選して行っていく。実施後、課題があれば来年度に向けて再考できるように記録していく。 ・退校時刻を意識し、一人ひとりが「勤務時間上限の目安時間」を達成できるように、職員間で業務の見える化を図ることで、業務の平準化を進める。</p>	<p>・「働き方改革」は難しい課題ですが、少しずつ意識は高まってきていると思います。 ・退校時刻を意識した教職員間の取組を期待します。 ・日々忙しい中で努力されていると思いました。</p>				

研究 主体的な学びにつながる「問い」「学び合い」「自己決定の場」「ICT機器の活用」のある授業づくりを目指す

連携教育 園・小・中連携教育で伸びる「大和っ子」の育成

【自己評価 評価】
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) <100
C: 60% (もう少し) <80 D: できていない <60

イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。